

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意味をふまえ、事業所理念をつくり、理念を共有して実践につなげている。	ホーム独自の理念「グループホームつりがね草は入居者の皆さんの尊厳を守り、入居者・ご家族の願いを最大限尊重し…その人らしい生活を継続し…」を玄関、談話室、事務室等に掲示し、来訪者や職員に常に指針として示している。理念にそぐわない言動が職員に見られた時には、理念に沿って管理者が個々に注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「子供を守る家」に設置されていることで、小学生との交流があり、定期的に隣の保育園との交流がある。地域の方には、夏祭り・栗拾いに参加して頂き、こちらからは、地域の方主催のそば会等の行事に地域の一員として参加して交流を図っている。	ホームとして町会費を納め回覧板も回ってくる。ホームに隣接して家主の自宅があり、様々な場面で力強い支援と協力をいただいている。隣地の保育園とは誕生日会や運動会、園児の日頃の活動発表などで声がかかり、年十数回に及ぶ交流が続いている。秋には園庭で焼いた焼き芋を園児が届けてくれるという。ホームの「つりがね草新聞」と法人の新聞は町会全戸に配布され活動状況を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験を受け入れ、認知症への理解や福祉へ興味を深めていただくようにしている。また、毎年ではないが車椅子講習会等の依頼があった際、認知症についての話をさせていただき理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。事業所の活動報告。利用者の現状にあったアドバイスや提案を頂きサービス向上につなげている。	町会長、家主、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を頂きながら定期的に開催し双方向の話し合いをしている。外部評価の日程や職員の研修状況、ホーム行事等を報告することにより地域の一員としての基盤を確立しようと努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し市担当者(地域包括支援センター)と現状報告、相談を行っている。また、市より派遣相談員が毎月1回2名が来所され利用者・ホームの相談に乗って頂いている。	介護認定更新等の手続きは、ほとんどの利用者の方がホームにて行い、家族等が立ち会うこともある。市担当部署とは良好な関係が保たれていて、利用の空きが出たり、困りごとの相談に乗っていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外に出たい方や歩行が不安定で目が離せない方もいるが、出来るだけ職員が関わりを持ち、本人の意志に反しないよう寄り添い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしていない。戸の開閉時には音楽がなり、複数の曲がランダムに流れるため自然に注意を向けられる。居室が2階のため8割の方がセンサーマットを使っている。職員研修は法人が年間計画を立て本部にて行い、参加できなかった職員や派遣社員などには資料を読んでもらい情報の共有化を図り、拘束のないケアに繋げている。	

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加し虐待について学び、日頃より注意・防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し、事業所での全体会議にて必要性を話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い十分に納得して頂けるようにしている。また、介護保険・報酬の改定の際には説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会ならびに運営推進会議を開催し、ご家族と第三者委員会との意見交換を行える場を設けている。参加できない御家族には、面会時要望などを聞きサービスに反映するようにしている。	ほとんどの利用者は自身の要望を表出できる。表出が困難な利用者には介護記録等に落とし込んでいる日頃のつぶやきや身振り手振りから総合的に判断し支援に繋げている。家族会開催に当っては運営推進会議の委員や第三者委員にも出席を依頼し、福祉の現状の話や家族の相談等についても応じていただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議(ミーティング)へ全員参加し意見交換を行っている。他に、必要であれば意見交換できる場を設けるようにしている。	全体会議は毎月中旬から月末の間に開催され、法人からの連絡や職員からの報告、意見や提案についての検討を行っている。会議の後半は介護計画の見直し等のカンファレンスを実施している。職員の仕事に対する思いは高く、職員間の連携の良さを利用者の支援に十二分に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の状況・職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けての支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が定期的実施されている。外に研修に出る機会を増やしスキルアップに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業との情報交換・行事等において交流の場を設けている。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の事前面接にてニーズの把握に努めている。また、本人が困っていること不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心を確保出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など情報交換の中、家族等の困っていること・不安なこと・要望等に耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談に応じ、必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念をもち、信頼関係を築けるように努めている。また、経験や知識を教えて頂き本人の力を発揮できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、日々の生活の様子をお話させて頂き、訪問しやすい環境作りを心がけている。また、請求書の送付の際にも日常の様子を担当者より書き添えている。家族との関係が疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所が途切れないよう、支援に努めている。	家族はもとより知人、友人の来訪を受ける利用者が多い。訪問に来られた方々には名前を記入していただき、居室にてゆっくりと過ごしていただいている。理・美容はその都度同じ建物内にあるデイサービス利用者と一緒に、顔なじみの美容師の訪問を受け行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し1人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の「特養小倉メナー」に入所された方は、行事などを通して顔を合わせる機会があるため職員・利用者同士の関係を支援している。必要に応じて家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を多く持ち、1人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な時は、本人本位に検討している。	ほとんどの利用者は思いを表出できるが「つづやき」を集め、思いの実現に真摯に向き合っている。沢山の選択肢があると選びやすいのではないかと考え、利用者からの選択に備えている。家族からも利用者の好みやできることなどを伺い、幅広い視点から支援できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力と理解を頂き、ご本人のバックグラウンドを把握し、生活歴やライフスタイルの情報を得て、毎日の生活や現状からその方の価値観や個性を捉え尊重した対応に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活パターンを尊重し、職員同士情報交換しながら、現状の把握・統一したケアを行うことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を設け、サービスの実施と評価表を参考に本人・家族・(必要な関係者)との話し合い要望等をケア計画に取り入れている。	利用者の状態に変化が見られない場合も介護計画の見直しを行っている。計画書に援助内容を載せ、実現できた内容は計画から外し、新たなプランにのせ自立に向けて支援をしている。家族には介護計画の変更に伴い、援助内容についてケアマネージャーが文書にて報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には、1日の生活状況が把握できるように記録している。ケア記録には、ケアの実施・結果・気づき・変更内容等を記録し情報の共有が出来るようにしている。また、ケア計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて支援できるように既存のサービスに捉われないで行っている。個々の身体的低下に合わせ、食形態の工夫・変更、必要機関との連携(訪看)の受け入れ体制等を作っている。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長・民生委員・消防署・警察署等の協力を得ている。地域の行事や隣の保育園との交流(月1回)は継続的に実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が地域にあり、2週に1回の往診で馴染みの関係が築かれている。専門医への受診が必要な際は、家族の希望する医療機関であったり、協力病院から必要な医療機関への紹介でスムーズに行っている。	協力医に変更する利用者がほとんどで、往診も2週間に1回あり、医療体制は整っている。利用者の緊急時には職員が個人ファイルとカーデックスの資料を一式持参し付き添いをしていて、歯科治療が必要な場合も往診をしていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護師が居ないため、主治医に相談し適切な指示や助言を求めることが出来ている。隣接しているデイサービスの看護師に必要時は相談し、適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療出来るように、また、出来るだけ早く退院できるように病院関係者との情報交換・連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については状態の変化があった際にその都度ご家族に報告、相談をしながら対応している。ご家族の意見を尊重し、またグループホームで出来ることを十分に説明しながら方針の共有、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	お一人の看取りをさせていただいた。家族、医師、ホームとの話し合いを重ね、利用者に対して何ができ、利用者にとって何が良いのかを考え支援に当たった。その利用者は日中にお亡くなりになり、夕方、他の利用者と職員で玄関からお見送りをしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習をうけ、マニュアルを把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い昼夜問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけている。マニュアルを作成し、消防署・近隣住民の協力・地域の防災協力隊との協力体制が確保されている。	避難訓練は併設のデイサービスと合同で実際に利用者も避難している。年4回の防災訓練のうち1回は消防署員の立会いで行っている。建物の構造上居室が2階になるが、避難訓練時には隣地にお住まいの家主に階段を使用し誘導していただくなど職員と共に利用者を支えていただいた。また、町会で特別に「つりがね草防災担当者」を決めていただき心強い限りである。運営推進会議の折に災害時のトイレ設置の指導もしていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの尊厳の保持とプライバシーの保護に配慮した対応を心掛け、目線・言動に注意を払いながら、さり気ない対応を行っている。	基本は苗字に「さん」づけでお呼びしているが、名前でお呼びしたほうがわかりやすい利用者もいる。職員は居室に入る時など、必ずノックをしている。夏や気候の良い時期には入りロドアが開けたままになるため暖簾をつけ、各居室のプライバシーが確保されるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状況に合わせた方法で、その人の思いや希望を引き出す支援をしている。個々の持っている力に合わせて自己決定の場面を多く取れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが利用者の生活ペースを大切にし、その日の体調や気分などを把握し希望に添った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は基本的にはご本人が選んでいる。寒暖によって職員が適したものを支援している。理容は希望に応じている。化粧、白髪染めの対応も希望に応じてさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は限られてきているが、食事の下ごしらえへの参加や食後の片付けを行っているよう支援している。職員も一緒に食事をするにより会話を楽しんでもらえるよう努めている。	朝食は夜勤者が下準備をし早番職員が作る。食材の買い物は遅番職員が担当し、利用者も一緒に出かけることもある。三分の一の方は介助を必要とするが、三分の二の利用者は自力で食事が摂れる。職員が優しく声掛けし食事を促すと、最高齢の利用者がその職員の顔を見ながらゆっくりと箸を進めており、その光景はホームの理念そのものであった。配膳、下膳ができる利用者がお手伝いをしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等に配慮し、本人の食べる量が確保できるよう支援している。水分摂取には十分に注意し色々な形で提供している。状況によって主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄やうがいを行えるよう準備・促しを行っている。必要時、介助で清潔保持に努めている。自力で行える方も最後の仕上げなどは声掛けし清潔保持に努めている。		

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活習慣・生活ペースに合わせて個々の力や排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄、排便のチェック表をつけ、職員は利用者の排泄パターンを把握しているため、声掛けで促しトイレへ誘導している。布パンツにパット、リハビリパンツにパットと様々であるが職員が一人ひとりに適したものを選んで使ってもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を多く摂るようにしている。また、水分摂取にも気をつけるようにしている。必要時には主治医に相談・指示にあわせ薬にて対応している。毎日、運動を取り入れ身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように努めている。個別対応により落ち着いてゆっくり入浴できるようにし、入浴剤等で楽しみに繋げている。	利用者の中には同性介助を希望する方もいる。基本的に入浴は週2回行い、夏場の暑い日などはシャワー対応もしている。入浴剤は常時2~3種類の準備がある。浴室はゆとりの広さで介助をスムーズに行うことができ、浴槽の形も腰掛けることができ、使い勝手が良い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝は個々で行われている。1人ひとりの生活習慣やその時々状況にあわせて休息している。日中の活動量や夜のパジャマ更衣などメリハリをつけ安眠に繋げられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。ミーティング等で取上げた薬についての再確認、変更時には連絡帳にて情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった活動をして頂くように努めている。ご自分で出来ることは、出来るだけご自分で行っていただけるよう支援している。本人の希望を把握し、ご家族にも協力してもらおうなどし戸外に出れる機会を増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて心身の活性化や生活リズムを整えるため、散歩を実施しているが年々利用者のレベル低下が進んでいるため、散歩に出る機会が減っている。外出行事など地域の方の参加もあり交流を図っている。	車椅子使用と歩行器使用の方が五分の一、手引きの方が若干名、自立歩行の方が約半分ほどで、持てる力はそれぞれであるが、外出の難しい利用者にも外気浴をしていただきたいと玄関前での日光浴を心がけている。ホーム近くには諏訪神社、お寺、公園と手ごろな散歩コースがあり散策したり、秋には職員の自宅へ栗拾いに出かけたりと、楽しんでいる。	

つりがね草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にて預かり管理させていただいているが1人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。また、代行にて希望を聞き買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ手紙のやり取り、電話の取り次を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心がけ、生活感を出すように配慮している。安らぎや心地の良い空間作りに努めている。	「談話室」と名前がついた食堂兼居間からは隣の保育園の園庭が見え、園児の姿と共に元気な声が聞こえてくる。対面式キッチンの広いカウンターと食器棚はコンパクトに置かれ家庭的な雰囲気、使い勝手の良いコーナーになっている。スロープの付いた玄関先で9歳の愛犬ハナが来訪者を出迎えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、独りになりたいときや気の合った同士で思い思い過ごせるような居場所作り、工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談しながら、馴染みのタンスや机・イスを持ち込んでいる方もいらっしゃる、本人が居心地よく過ごせるように心がけている。	押入れ2ヶ所とクローゼット2ヶ所が備えつけられており、荷物も広いスペースに出し入れしやすいように取められていた。各居室はエアコンが完備され、プライバシー保護のため掛けられた暖簾の上には防災頭巾が引っ張ると直ぐ取れるようにゴム紐で工夫し壁面に取り付けられている。室内は畳敷きで落ち着いた風情があり、心地よさが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持っている能力の把握に努め、安全かつできるだけ自立して生活が送れるよう工夫している。		